

二十歳のころ

D 班 小塚・杉本・田代・三井

研究動機

私たちは、航空業界など多種多様な職業経験を持つ河野恭子様と今年で創業 50 周年になる会社を経営されている長田行平様から、経営者にとって大切なこと、仕事で大切にしていることや仕事のやりがいを知りたいと思いインタビューさせていただくことにしました。

質問者

日本大学経済学部キャリアセンター 河野恭子様

株式会社朋ジェーエス・ピー ダイヤモンド印刷工業 代表取締役社長 長田行平様

会社概要

・株式会社朋ジェーエス・ピー ダイヤモンド印刷工業 代表取締役社長 長田行平様
様々な職種で働き、大学卒業後、株式会社朋ジェーエス・ピーに入社。2019 年にダイヤモンド印刷工業の社長に、2021 年に朋ジェーエス・ピーの社長に就任された。

質問

河野様

Q なぜ今の職員ついたか？

河野さんの仕事観として、人の役に立ちたいという思いから、様々な職業に携わってきた。ANA 客室乗務員時代には担当した便のお客様に最高のサービスを届け、お客様に喜んでいただくことを心がけていた。

Q 働く前と働いている現在で今の職員対するイメージのギャップ

ANA で働く前は、いろんな国に旅行ができてとても楽しそうだと考えていた。

しかし、実際は上下関係やマナー厳しく、研修時代はそれらを見つけるために苦労した。研修の時叩き込まれ、さらに客室乗務員として活躍し磨かれていったマナーは現在でも身に付いており、様々な場面で役立っており、特に ANA 退職後、同僚の紹介で勤めたポストコンサルティング会社の秘書を務めていた時に大変役に立った。

Q 二十歳の頃に行っていた活動、勉強や現在活かしていると感じるものについて

20 歳の時に物事に向かう姿勢で、いろんなことに挑戦してきたこと。

大学で外国語を専攻をしていて、将来英語を使う職業に対する憧れや、海外で働いてみたいと言う夢があり、英語の勉強を続けていた。

また、秘書の仕事に興味があり、秘書の資格勉強に励んでいた。

このように、当時やりたいことや、夢を達成するために必要な事は何かを考え、何事にも挑戦していくことが現在にも活きている。

Q やりがいについて

河野さんは誰かの役に立つことができた時に最も喜びを感じる。

特に海外のコンサルティング会社で秘書をしていた時に、インターネットがない時代、どの飛行機を継げば、1 番効率が良く移動できるかというのを、ANA 時代の経験を踏まえて、一つ一つ出発地点や到着、場所、時間などを照らし合わせ、最も効率の良い飛行機の乗り継ぎのコースを提案することができた。時間などを一つ一つ調べ照らし合わせるのはとても大変で、飛行機で出発する直前まで最も効率の良い乗り換えはないか再確認し続けた。

この経験から、人の役に立つためにもっとできる事はないかとさらに考えるようになった。

Q 今後の目標

現在、キャリアセンターで学生のエントリーシートの添削などを行うことで、学生の夢の手助けをすることができるということにやりがいを感じ、より若い人のサポートをしていきたいと考えている。

また、将来やりたい事を大まかでもいいので書いておき、目標を持って物事に取り組むことが大事だと考える。

20 歳の頃にやりたいことや叶えたい夢は今後のその人の人生のやりたいことの柱となり、どんどん発展していくので、やりたいこと、叶えたい夢に必要なことを考え、一生懸命取り組むべきだ。

さらに、今やりたいことや、叶えたい夢が見つからなくても、まずは目の前にあることを一生懸命し、挑戦し続ける姿勢を大事にすることが未来の自分を作ることができると思う。

長田様

Q 二十歳の時にしておけばよかったことは？

「多種多様な経験を積む」「アンテナを高く張り普段から課題意識を持つ」ということである。

一方で、知識が不足していてもいつでも追い付けるともおっしゃっていた。

「この境遇がなかったらここまで努力して理想に追い付こうとしなかった」とのことで、今が一番勉強しているとおっしゃっていた姿が印象的だった。

Q 働く前と現在の仕事に対するイメージのギャップとは？

働く前は多少仕事に対して楽観的な印象もあった。

しかし現在は従業員のためになることを模索し続けており、自分が支えていきいづれ支える側の人が増えるのが理想である。

時代が変わるにつれて働き方や人との関わり方も変化してきたので、勤務時間内にいかに話し合いや相談ができるか考えている。

Q 二十歳の頃に行ったことで今に活かせていると思うこと

様々な経験と人のつながりを大切にしている事である。

多様な人との出会いは新たな発見をすることができる。

したがってバックボーンは自分の強みであり財産になるから興味を持ったことに積極的になるべきである。

Q やりがいとは？

従業員の生活を支えられていて、幸せそうだと実感できることである。

他には厳しい社会情勢であり、さらにポジションのプレッシャーがかかる中、給与を上げられること。

また、感謝の言葉をかけられることも嬉しいということだった。

どこまでも従業員のことを思いやる行動に溢れていた。

Q 人を率いるうえで大切にしている事

一つは従業員全員を見て知っていく事。

次に役職者が管理できるように指導すること。従業員が多いので 20 人程度の組織のピラミッドを作り役割の明確化を図っている。

また、信頼関係を築き従業員のやる気を育てることも意識している。

給与や業績だけでなく人間関係や居心地のよさも特に大切にしている。

Q 指針にしている事

自分を叱る立場の人間が減ってしまうので自分が自分を律して行動しなければならないということである。

また課題意識を常に持ち、鋭利な思考ができるよう日々思考することである。

技術革新が目まぐるしく起こるからこそ、アンテナを立てて当事者意識を持つことが時代に乗り遅れないポイントなのだ。

Q 今後の目標

経営維持をしていくことだけでなく、顧客や取引先、従業員に選ばれること。

つまり良い評価をされることである。

他にもエンプロイエンゲージメントを育てることも意識している。会社が褒められると自分が褒められるのと同じくらい嬉しいと従業員全員が思えるくらい会社愛を育て、帰属意識を持てるようになりたい。そして役職がある人もパートの人も立場関係なく真剣に同じ方向を向いて取り組めるようにベクトルを揃えたい。

感想

今回河野様と長田様にインタビューをさせていただき、お二人とも共通して、早い段階で目標を明確にすることと挑戦し続けることを大切にしていることがわかった。

また、お二人を聞き、時間に余裕がある大学生のうちに将来に繋がる目標を明確に立てて、それに必要な経験や資格、知識を逆算して積み上げていくために、今いつかではなく今行動を起こそうと考えるようになった。

さらに、大学を卒業して、社会人として社会に出ても、常にアンテナをはり、物おじせずに何か新しいことに挑戦し続ける姿勢を大切にしていきたいと考えた。

特に河野様のお話の中で、印象深かったのは、今挑戦したいと思っていることがどんどん派生していった、将来いろんな挑戦や経験をすることができるというお話でした。このことは、河野さんの多種多様な経験を伺って納得することができ、私たちも今挑戦してみたいことを突き詰めてどんどんいろんな挑戦をしていきたいと感じた。

また、長田様のお話の中で特に印象深かったのは、人を率いる上で大切にしていることをお聞きした際に、社員全員を一人一人見る事は難しいため、20人ずつのグループに分けて自分が見られない社員にも自分の代わりに社員一人ひとりの頑張りを見てくれている人を、一人一人見ていると言うメッセージを伝えることで、社員のモチベーション維持を図っているという話を聞き、従業員がいかに働きやすいかを追求していると感じた。さらに、インタビューから長田様が社員の幸せを一番に考えていることが伝わってきて、将来長田様の様な社長下で働きたいと強く思った。

最後に、今回のインタビューを通して今後の生活を見直す良いきっかけとなった。

大学生活をより有意義なものにするために、目標を持って積極的に行動していきたい。